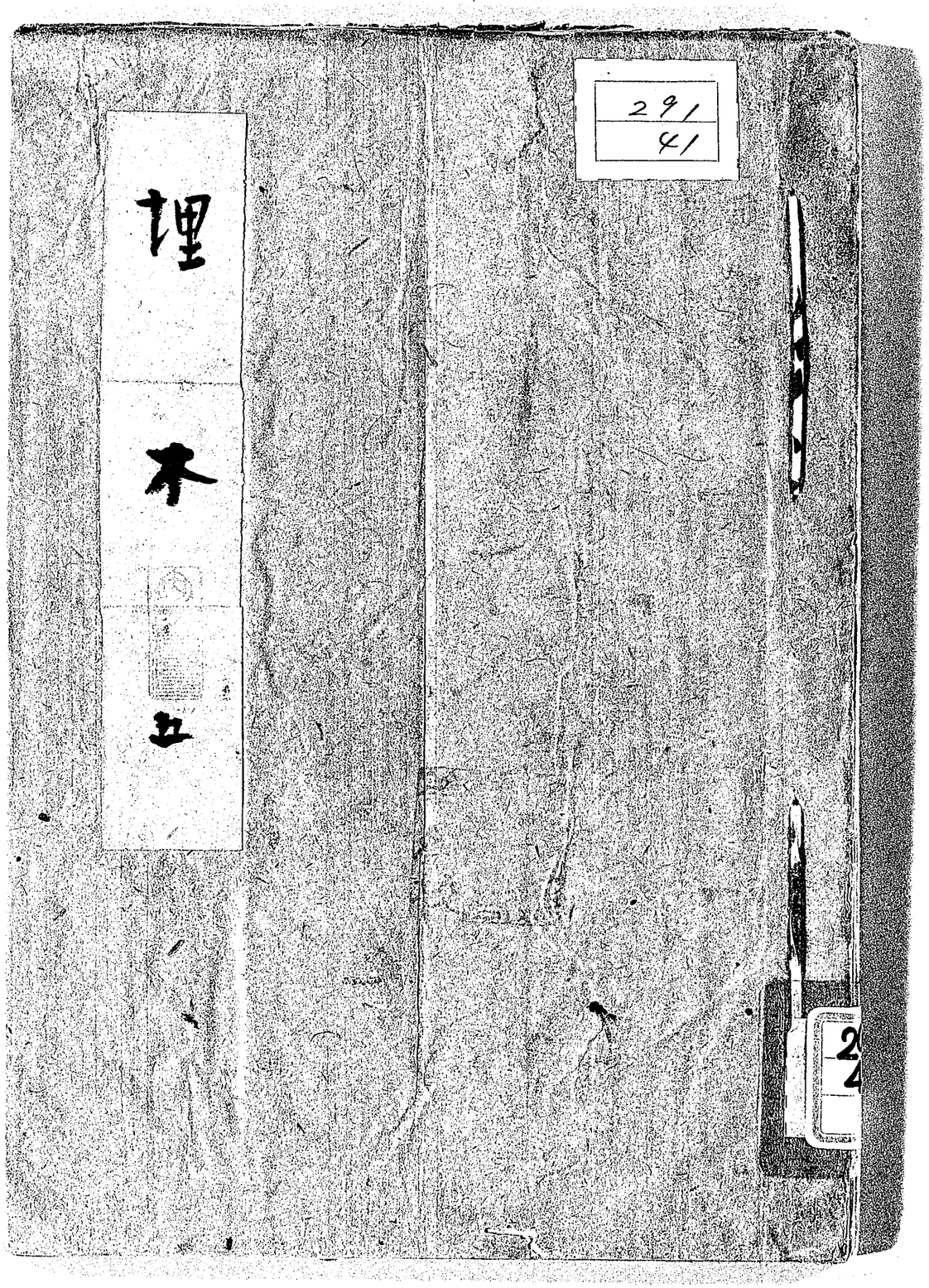


県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

291
41
1

古座高校図書館
28.10.21
蔵書NO. 3967

中根七郎

はしがき

吾人事を語るに際し常に感ずることと又物を書くに方り常に感ずるは文字の不正確なることいなり

一例をあげて大小賢愚の如し一寸棒の大小は船の大小なり単に大といひ小といふも量積の表示を欠くを以て甚だ不正確なり進れとして対話の間にも敬語常識を以て同く故に何の怪疑なし賢愚に於ても下層小人の愚愚なり上層大人の賢愚なり等く賢と云ふ愚と云ふも甚だ大なる差違あるなり品性度の表示を欠く熟れも之を文章に書きるに方り区別し難し故に讀者の常識に訴へて認定を求むる外なし

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03967

此類日常茶飯に出れども言語文字の整とさる間と之を聴者讀者の能力判斷に委ねたる外なし故に話す人書く人の方量固より必要なれども又聴く人讀む人の方量も必要なり此両者一を缺くときは其効を奏し難し況や言の如きをや

須く以心傳心といひ孟子書く言を信ずれば書なきに如かずと云ふ斯す言ふに俗言に一き也

善類の餘として此所感を挙く

但本文五善を以て暫く休止す

昭和十八年四月廿五日　日本國粋社諸氏大会の中日に

于安楽町高　熙菴中根士郎

一　中村師竹翁
　　所録言森清一氏宛　水岩吉氏
一　中陵の漢策
一　郡有宮地と山本氏
一　地名資料二
一　樣と大谷渡
一　小島茅德氏

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

中村師竹翁

師竹翁姓中村名行藏世々新宮藩ニ仕ヘ、翁幼時新宮小學校ニ教鞭ヲ執リ次テ高池町ニ轉シ久シク教職ニ奉ジ高望寺池西河紙合資業學校ノ成ルヤ聘セラレ同校ニ師トナリ昭和ノ初ニ至リ老ヲ以テ職ヲ辭シ其事業ニ從事ス事實ハ四十餘年以來高池俳壇寺ノ時ハ耐居ヲ占メ詩酒自樂ス昭和十八年九月十六日病ニ卒ス享年八十有一

翁ハ書畫精妙ナリ而シテ三外氏ナリシカ後日下部鳴雀ハ和歌ヲ能クシ又詩俳ニ巧みナリ

翁ハ其人ヒトシテ頗早ク、其筆ハ比ヒナク稼ヲ少ク、田宮教育ヲ以テ傳ヘタルモノ、殊ニ晩年嗣子ハ別

れて孤獨の身となり甚不幸悲しきより慰むるに其詩を
讀むに和平温雅の調多く甚苦の聲なし其天を樂み命に
安ずる所以も及ぶ難しとなす爾の如きは文器ならずして
能く其功を能く人と為り後に傳ずるに足る也爾の
學と其業とを家せられたる詩歌を寄て歩屋に和めり以て
吟誦に供ふ
爾の兄弱日耕家大人と京都に住す其恩及書信を世に
宣伝あり又聲せず
昭和十九年四月廿一日黙菴記

師竹翁詩集

觀花五七絶句

老来訪春色　笑猶纂嬋娟　容無異昔　我髮既皤然　回首曾遊真一夢　花落花開已十年

山寺晩春

山門春已老　奈此落花風　萬事凡如許　觀来色即空

大勝寺觀花

同調遅迴約　春風入寺門　花曾識我面　鳥能

何人言　今日遊行樂　乃知青帝恩　詩酒宜晝興　世事復何論

古座溪清夏三首之一

欲消三伏熱　一棹泝清流　深淵魚躍霧　激湍雪迸頭　停舟時挙白　爽然氣似秋

仲秋無月

空供草花空挙杯　奈斯雲雨掩瓊瑰　由来良夜難逢霽　又賦仲秋無月詩　未定稿

古稀偶吟三首之一

美月吟花獨樂天　古稀養志海南邊　身如竹健何多幸　五十人生加廿年

次韻府厚東詞宗古座峠即事韻

古峠風光本鬼劇　山容水態白雲衙　更驚千里張鵬翼　天下無雙一枚巖

其勢堂々似架梯　仰望一望共雲齊　巨巖如此罕天下　但惜世人無好題

境愈深兮眼愈新　絶佳風景盡驚神　如觀摩詰倪雲思　翠壁丹崖十里陳

一葉扁舟劃細漣　棹来丹壁翠崖辺　奇雲巖下獨回首　杜宇啼過雨後天

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

探到古川鶴大叢　峡門深霞白雲縁　杜鵑高叫
一溪静　光景恰如入仏龕
飽看風光惜別離　扁舟載酒夕陽遲　齊雲巖下
暫停棹　緑樹啼鵑景更奇
其容恰似展霞裳　此之衡天勢激昂　名勝筆未
三十六　齊雲巖是景其王

清暑島

澄潭如鏡水如油　緑樹参天境自幽　清暑巖頭
不知夏　満川涼味送扁舟

莞月巖

天半奇峯樹半銜　其容恰似纏青衿　風光五月
家堪賞　莞月村頭莞月巖

少女峯

懸崖高聳少嬢峯　新樹啼鵑感更深　南昔為郎
死貞節　木深猶是帯哀音

明月巖

一川明月玉珊々　疑是嫦娥向廣寒　風景何時
景佳絶　中秋半夜泛舟看

牡丹巖

天極奇工月瀬端　仰看峭壁異花攢　浮雲富貴

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

若休說　萬古巖頭看牡丹

巨人巖

巨人巖在古川邊　恰似衣冠束帶仙　路上仰看

正襟拜　風神出俗自儀然

髑髏巖

髑髏巖下白雲前　境靜溪深流泉　默念生石

唯敲句　山靈知是笑詩禪

玉筍峯

古塵川源雲氣重　溪流轉處躍蒼龍　應知此物

神仙供　天半朝成玉筍峰

倚翠峰

仰看天半掛雲鬟　倚翠淋漓樹影斑　古峽誰揮

靈妙筆　宛然直出宋家山

齊雲巖

神鑱鬼斧勢堂堂　吃立雲中太且長　如此奇巖

空天下　勝區多見偉巡鄉

天柱巖

巖身半被白雲封　屹立其容似躍龍　若向古川

奇絕趣　自成天柱是斯峯

中秋泛舟于月瀨同友人賦　三古

斟酒逢良夜　来賓月瀉秋　一川銀蛇走　十里
玉鱗浮　岸上蟲聲冷　天邊雁影流　恍如沂河
濠　飄飄乎駕高舟　乘興歌且醉　恍惚畫斷古愁
嫦娥聊謝汝　招我共清遊

歲晚

劫喜清貧憂世宜　硯田筆秉足凌飢　迎年用意
為何事　一朶梅花一首詩

茶賦　勅題朝海

東天方欲曙　一帶瑞雲開　海色清如拭　極目
無點埃　遂拜金沙千里外　旭光先被因光來

春日展先考墓有感

彼岸皇靈日　來展先考塋　春雨花含淚　東風
柳惹情　死別世餘歲　悠悠空送生　何時顯父
母　偏恐未得名　小禽我恥汝　早已遷喬木　第一夜春聲　此身雖老矣　志業
豈難成　自今益努力　宜炳德日明

學書十首

凝神兩和氣　臨池日三昧　一意法晉唐　臨書
合景愛
蘸書研池水　龍蛇紙上馳　揮毫志何極　一醉

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

興未時
我觀王逸少　書法可以磨　聊擬山陰跡　日夕
樂模寫
問道復尋法　研磨五十年　臨池志斯成　自嘆
作書仙
學書無秘法　唯要一心清　研磨能致力　他日
必大成
興到詩成處　揮毫真快哉　紙上雲煙起　鳳翔
龍躍來
書法三昧歌　誨以為心鏡　先賢不吾欺　心正
則筆正
平生好翰墨　義獻以為鏡　無日不揮毫　壽夭
吾性命
凡執筆之法　實指而虛拳　必貫正氣力　可以
臨紙田
知指運筆法　意宜在筆前　一揮詩毫處　生氣
欲衝天
感冒襟中偶吟
豈料風邪襲我肌　山人經下病床帷　意前從有
梅花發　懶把杯兮懶賦詩

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

酒

閑道由來酒是狂　誰知聽裏有仙鄉　愛之煩適
山人性　百毒長成百藥長

新年　七十六歲

松竹栽門歲歲新　一杯蘇酒著吟身　清貧却喜
無俗累　迎得古稀還六春

梅雨

草堂梅雨天　萱葉綠新展　蝸涎趣太奇　模得
古文篆

古座峡消夏三首　一前出

欲消三伏熱　一棹訴清流　深淵魚躍處　激湍
雪迸頭　停舟時擘白　夜無氣似秋

拜潮岬　岬製碑

玉步曾留跡　霜雙海上雲　偶天拜　尊詠　聖
德有餘薰

觀花　五七　前出

老來訪春色　笑猶菜擇妍　沿答無異昔　鬢
既皤然　回首曾遊夢　花落花開已十年

時事

請見神外仁義兵　堂堂已授筆堅城　寄言薇園

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

速降伏　可為東洋策泰平

時事

天譴豈容暴雲行　叨歸抗日吾為情　蔣家亡國
知非遠　忍聽牝雞告曉聲

感偶

不厭山居奔　却欲遠俗塵　書中有良友　耽讀
日相親

時事

將軍抗日又堪憐　幾度行為德文隣　昔識暴君
投信州　何衛伊尹想異人

壽壽自詠四首之一

吾師坐君是　吟詠結清緣　喜字年迎得　筆硯
俱健全

又

虛心豈又說窮通　自適優遊翰墨中　好事坐君
全晚節　喚迎七十七春風

又

翰林托跡覺心寬　明月清風是我餐　二萬七千
三百日　自知千竹幸平安

寺行脚

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

靈巖寺

松齊靈巖寺　雲生龍谷山　秋來幽意足　一點

隔塵寰

圓通寺

曾遊弄春色　酌酒醉煙霞　清興忘難得　復尋

山寺花

祥源寺

對坐看雲下　把杯興味深　向花天造畫　鳥啼

自然琴

正法寺

一醉看雲下　詩成興不空　春風如有意　花落

酒杯中

善照寺

古寺春正好　醉吟清興催　庭花紅与白　一笑

銜杯來

阿彌陀寺

杖杖登山寺　寺高望不凡　一帆去垂影　雲起

九疑巖

青原寺

古寺在高處　登臨眺晴雨　蒼茫海山景　皆日

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

聖禪寺

峨嵯寺

其高三百尺　常見瑞雲横　翠蓋千年色　清風
萬古聲

大勝寺　前出

山門春已老　奈此落花風　萬事渾如許　由来
色即空

辛巳元旦

辛巳年始度　参拜社頭晨　臣道宜相慶　誠心
以捧神

訪陽田友

京洛尋親友　来沫百里程　笑酌一杯酒　温容
舊交情

讀鳴鶴先生之鮭野並馬場遊草二首

無雙鮭野景　一二入詩篇　讀吉吟魂動　恍然
骨欲仙

曾聞馬場勝　偶見鶴翁詩　風景真堪慕　吟魂
飛欲之

拜觀二條離宮

三百年前此造營　追懷往年感頻生　殿堂精造

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

庭園美　兼備平安二條城

紀元節偶吟

皇室故日肇邦家　仰見乾坤瑞気加　詩家把杯
還有喜　紀元佳節醉梅花

那瀑氷結

大瀑無聲石骨堅　結氷如此古宜眞　奇觀真是
驚人目　萬丈水晶天半懸

謝見贈酒

寂寞貧居久廢觴　千花千月恨偏長　偶然有客
携樽至　一醉陶然喜破狂

時事雜作

近来之衣食　喜女事鍬鋤　於斯我風景　花園
憂菜畦

失題

江山到處醉煙霞　不厭春遊行路賒　自嘆杖頭
錢幾許　擲来有酒古花家

又

獨携紅友訪花来　若亦為吾鈷鉧杯　布被少年
冷笑去　白頭猶是醉花白

中根雅契親所藏書畫賦詩送謝

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

賞觀樂無限　書畫些詩歌　有酒還須興　喜唯
眼福多

題

偏喜觀花自有緣　復攜紅友到山隈　白頭行樂
君休笑　日被黃鸝語殺來

一月元旦

趁拜東天心自新　三杯蘇酒祝元晨　連峰仰見
祥雲彙　喜是皇軍勝捷春

遥點蓬萊兄

路花遠隨流去　黃鳥猶來友鳴　宣撫書　古江柳

何不繫別離情

觀一枝叢二重橋

白巖岳之遍雲霄　古峽絶奇裸砌頂　莫是神仙
通帝路　浮頭聚得二重橋

古峽　昭和壬申夏月

紗窓巖

仰見懸崖上　宛然巖作臨　神仙宜避暑　綠樹
似紗窓

桃源郷

鳥啼花亦笑　一境陽塵喧　云是樂天地　宛然

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

武陵原

蓬莱巖

仙鶴其上舞　憲龜其下游　蓬莱巖獨立　景好時清遊

石雞澗

偶宿雲深處　水清洗耳清　溪亭新緑滴　雨後石雞鳴

高士峰

不容俗人到　一路白雲封　萬古依然立　仰看高士峰

踏雲橋

山轉院回處　鳥啼書斧聲　神仙未往好　架得踏雲橋

天馬巖

上帝騎歸御　請看巖勢雄　一鞭快何極　天馬忽行空

鏡奩巖

瀲灩金波碎　風光洵美哉　青山宜雪影　月照鏡奩巖

十哲巖

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

古谷溪之勝　看来皆不凡　就中競秀者　十指
有奇巖

鳴箏瀑

雲溪淫靉靄　有瀑孫鳴箏　點立巖相對　宛如
聽此聲

帰雲嶺

屏顔相對處　隱見變其姿　寔是多奇趣　白雲
去来時

観花五七絶句

庭櫻此有待　曾此法清緣　法能落逸興　吾等
賦詩篇　每遇春風撫面至　賞花此寺十餘年

正法寺観山茶花

小春日暖囀禽聲　乘興来遊古梵城　堂可無詩
可無酒　山茶花發滿園清

正法寺観花

花香月影園清姿　好是吟詩且喫茶　一刻千金
春夜景　吾来此寺始知之

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

師竹翁歌集

山寺晩春

咲ひ不一花と岩の山桜はかなやさ世の偶をあつか

仲秋無月

月なくて宝一く間をのむ夜ふ雲ゆかこちつ雨を恨みの

歳暮

なすすべのなき身なりしに何となく心せすーを年の暮れ

述懐

空嘆する身おもおもきしうんーきさはころる梅のたしーを

り空

勅撰をきゝて

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

文軍の後とおぼしき朽くつれしまゝ苔むしたる
り
夏
この寺さいこの寺志のかん木の葉さへ、こゝかすかなる
もなけれす
書岩寺
一丈の寺のめ寺の外杉杉の中小樹の花のさきたる
国通寺
山寺の樹も今をさかりなる花み幸なる色なるこゝ
祥強寺
寺たけ寺の樹もれの文の鐘の音みさへ聞るかとそ思
ふ

正法寺
新み寺の樂文こゝ花鳥の心高山寺
若松寺
ものいけるこそ寺れ時きかつて春なるめる樂
しかりける
阿弥陀寺
うちつゝく杉の緑み葉映えて白帆かすあり寺の浦へ
長谷寺
世に遠くたゝまれたる八重雲中の一重す帆船かけ
り
成就寺
天仲ル杉ふく風ふ揺もれて寺の文筆を塗るかけ

六月廿六日

人の寿もかくやあさらん 撫花さくと見れば夏とち
ゆる

童子の死を悼み

逝くものとそめかくやまたらす者ひ この夏の
代らんものを

暑中吉人をみよす

山こもれる住むさく暑き夏の日ふ都大路をいかみちらん

こ折

存ちかく向く寺の寺を志めり 青面さむ一山の下陰
ゆ皆のちくれ一つおたる山見みやらも えら寺の寿

山に木に焼きはたもたる 古寺前の菜色おちらるる新
もたり

のとけくれ 撫花ちかし 紙田み寿みさ一ろく 蛙らたく
り

和梅の花よ 一年く寺の元 流れ いつる 寺の寿
まこ寿とと、 なお 寺の 寿言 きみすられ一から
けり

鈴之山

寿りおふ木ての 苔菜の色すー山 さ生ら 生くるか
こせ

又

おきくせのわれ一やり けり 新の花 さきー寺 寿おお

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03967

くれす

田家雪

とゝの山ゝ雪ふかくなりぬらん注連さゝ〻銀しゝ白く雪の
つもれる

野外初春

吹風の秋ふかせて水色の淡き梅の上ゝ
遅さらす

何をも早く雪のおかさまりて和らく風の吹くを待ちつ
つ

新宮古城内通道のあきをり

袁ひろをまゝこゝくひろを見ゝつゝあなたこんなるくつる涼
車の旅なれ

中港河道会社の庭にすゝきの花を見て
秋ト病みをゝせ細りたる手弱女の姿ト似ゝりこすゝき
の花

秋さびて見るさゝ〻新えれたゝ赤ゝ十はれ老新みゝ
咲りたる

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

[illegible]

[illegible]

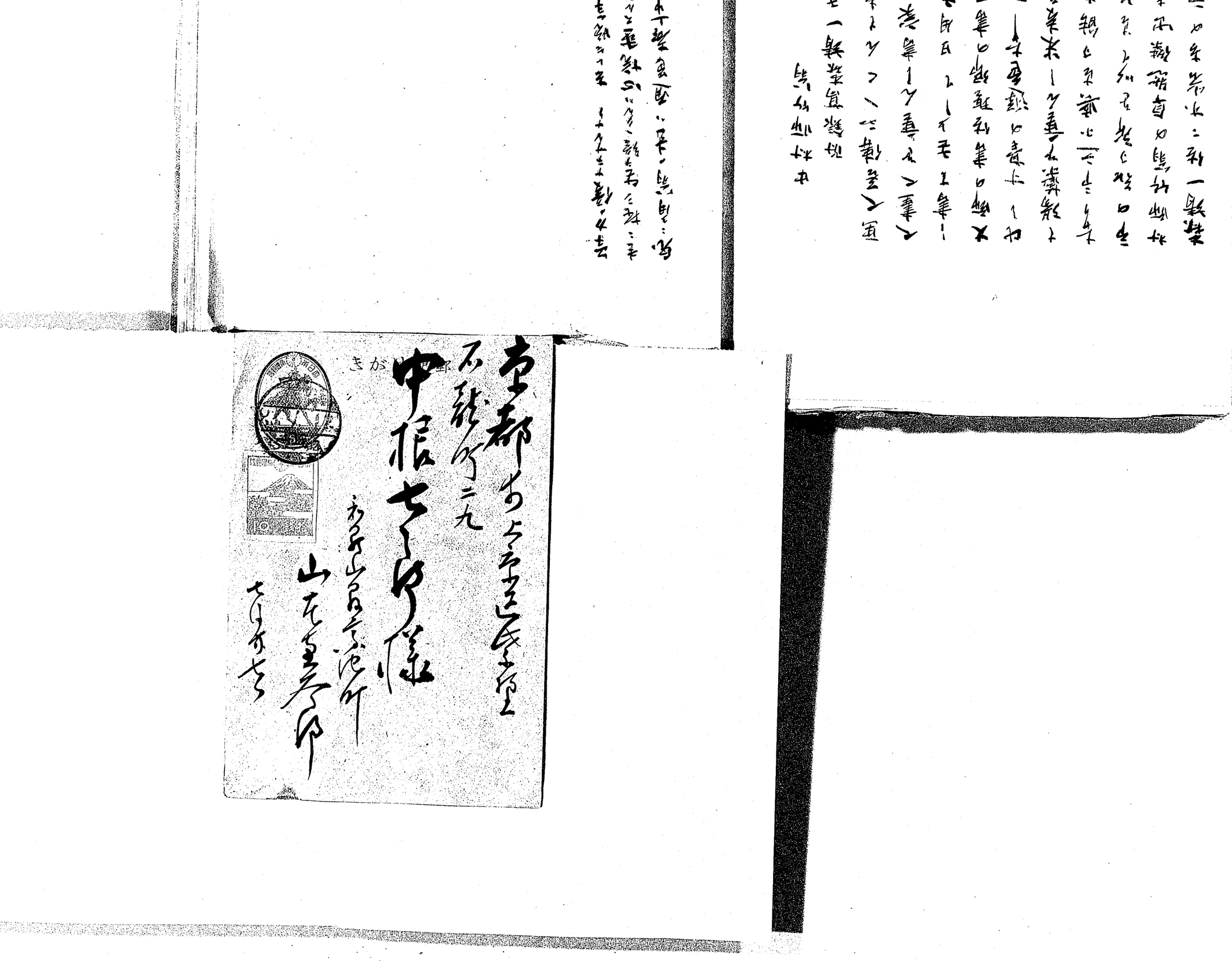
[illegible]

中村師竹翁

画人吾傳にくくんで書家亦偉人さるへかゝる吉、然るに世人畫くを重んじ書家を軽んず蓋画の素美術序たるに比し書は主として日用為なるに基因するか、然れとも彼の大師の書体理卿の書及行脚の書の如き巨匠大家の画に比し寸毫の遜色なく而して之を軽重せんとするは譬へ瑞藁を重んじ米麦を軽んずるに異ならざるなり

市の知る所を以て吉れも無駄事に於ける能書者三就中中村師竹翁の卓然傑出したるを姑く措き之に次ぐ者を高森靖一氏とす岩吉の二氏とした故高森氏も吉田晩稼の流

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03967



県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

を汲み伺ひに木氏も鮭谷萬壽先生の風を学んで出藍の勢
あり鮭谷先生も温雅丁寧にして頗角なき風を大陸帰朝
たるかゝる〳〵而して二氏共に未だ一家を為すに至らざ
るも世に普通に称せらるる書を好むこと萬々二
も中等教育界の書を師とせるべき比なるも其上乗たる
べきを信ずるなり
二氏共に短躯、一は瘠、一は肥、又二氏共に書画を好み鮭翁
の眼あり、更に又二氏共に事業の失敗者たり、言
森氏も鮭谷鉄道市設の方り沿道駅場所近土地買占を伺
ひ木氏も畫業の轉向を企て株式に失敗し財界不測の
暴落に禍せられ家産を亡ぼしたり若し鉄道市設を
早から一層の奮勇を所の庶幾者伺ひ両氏大人の死を聞から

しめて大喜び相奇の蒐集を収め
得たるを信ずるなり天地二オに幸せず失敗の人と
なりたるも所謂時運の然らしむるもの世に善人にして
善を敢て者甚少からず故に時勢を以て人を論ずるも亦
之を願はせず
高森氏父を信平と云旅館主人たるに妙を策剣を巧みに
一女芳姫の生れ一男子を失ひ今は
一男一女あり男を樣太郎と云東京方面に修学中家業
三井物産の要職に在り一女と千代恵と云ふ新宮市の屋
崎家吉氏に嫁し屋号を大吉と称し一財産を作せん同市政
界対界に重きを大吉而して
方森氏に木二氏に親交たり熱心なる市政に

和十九年四月往時を追懐して二氏の平生を記し共に相図
りき所異なる所を挙げて之を中村師行翁の記す所録に在
て之を二霊首肯せらるゝ、幸甚（昭和十九年四月十二日）

中湊ノ漁業

地ハ海ニ濱セスシテ漁業権ヲ有セサルモノ、古登川沿、宮池
東大字宮池ニ属シ宮川原、郡書宮川原村アリ、古登界ニ
大字中湊、郡書中湊村アリ、
宮川原村ノ漁業権ニ関シテハ、古登漁業誌中ニ其由来
ノ大要ヲ述ヘ、宮川原氏ニ墨関スル旨ヲ記セリ、
中湊村ノ漁業権ニ関スル由来ヲ繹ヌルニ、伝承信憑ス可キ
ナキ事柳三前郷池ノ口村上王権現、郡名ノ日吉神社ノ
条ニ

又地引網一帖アリ、古ヨリ宮ニ属シ網ニテ、祭礼ノ前日
ニハ供物ノ鯛ヲ漁ル網ナリシニ、今ハ稼網ナリ中湊網ト云、
中湊村ハ海村ナラサレトモ、此一帖ハ漁事ヲナスコトヲ許

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

サル

トウリ（法レ十七）ニ属キシ側ハ、中湊側一帖ノミニ止マル、氏下三村ニテ三帖アリ、昔神川、西向、中湊ハ（所ヒシ日ノ帖ニ）各一帖ヲ有シ、三ヶ所ノ地先ヲミ村輪番交代ニテ操業セリ、其場所一ツ二手田ヘエダト云フ、大浦、明津メイヅノ間ナリ、一ツ松ノ前ト云フ明津神川ノ間ナリ、一ツ古座置コザキト云フ西向ノ東所通ノ浦ナリ、而シテ其順番ハ毎年四六月一日ニ抽籤スト云、然ルニ古座置ト云ヘル所謂中湊側ナリ西向村役場ニテ調査ス其名称古座置ハ、古座ヨリ之ヲ置ク意トシテ、中湊ヨリ置クモノナル故ニ名実相当ス、コザキ恐クハ古座先ヲ中略シテ「コザキ」ト稱ヘタルナラム、然ルニ西向ノ東所通ノ辺ハ、元ハ古座ノ地僅ニシテ、古座川、河口ノ一部化シ居リテ、

西向村ヲナセル家ナリ、然ルニ古座先ト唱ヘ、個場ノ名稱ハ、後来ノ稱呼ヲ慣用シタルニヨリト考セラル、

抑モ中湊村ハ西ハ古川東氏ノ所領ナリ、而シテ山王権現ハ小山氏氏神ノ側、西向側ノ山王権現ハ、神ノ川村ハ小山氏ノ所領ナレハ、神ノ側、西向側ノ山王権現ニ属スルハ其理アレトモ、中湊側ノ山王権現ニ属スルハ、其関係ナカラム可カラス、思フニ中湊側ヲ創始シタルハ、古川東氏ナル故ニ古川東村ヨリ中湊村ニ移シタル後ニシテ、何レノ時代ニカ中湊村ヲ山王権現ノ氏下ナリ、神ノ川、西向等ト共ニ、之ヲ氏神トシテ尊崇シ、寛永十七年古川東氏ヲ山王権現ノ常社殿ヲ再建シテ、祭祀神ニハ女ノ上座ヲ上ヒ、山王権現トノ関係ハ、小山氏ト比肩スルコトヽナリ、其後メデ中湊側ヲ山王権現ニ奉献シ、寺ヲ廃セシメタルニ非

スヤ、ヌラサレ、西向ノ地蔵ニ中清ノ間ノ置クコト其理ナキ山有ナリ

其後山王接地側ニ至村各自ノ稼働トナリ中清ニ海苔ナラサレトモ地ノ側ノ変化ニナルモ

他ノ如クニ落胆ノ時代ヲ経テ明治維新ノ後ニ及ビ、明治三十六年漁業法施行ニ伴ヒ、仮免トシテ旧慣ニ依リ共漁権ヲ認メラレタリトカ、明治四十年ノ頃取消金百円ヲ以テ、之ヲ西向村ハ譲渡シ、法古宮村在氏創始セラレタル未ダ年俸制ヲ行使シ来リタル漁業ノ権利ヲ、無償ニ寄与シ、結ト人ヲ漁業者ニ同係ナキヲ以テ、ナル神社又ハ西氏ノ許並中清区ノ部

昭和九年三月四日稿

部有宅地と山本氏

部有宅地　今の新宮市として曾て新宮所と称へし時代の下本所通りの東端旧八幡神社道への曲り角より北へ鍵の手の長方形廓を前百坪許の宅地あり其宅地の北方新宮所後場より北は民地にて場を以て界し東南二方は道路に西は新宮第一尋常小学校の表門と左右土塀を接したり、此宅地は元東京帝部新宮所初三十一所村の共有なりしが明治三十　年郡制実施に依り郡有財産となりたり保存の必要なきを以て之を家分けすることゝなり、新宮界隈なる校舎を建て時譲渡して之を移んことを願ひ郡会議に諮はれて依り

手放さむとし情高相論を為す

政派　由来新宮町は実業派と穏健政派有り之が対抗して中心会派有りて互に相争ふ此時新宮町役場は実業派之を占め都会議員も中心人物を加盟せる者多数なれども此宅地賣買を巡りこの両者の間に暗闘起きたり

競賣　之方りて此宅地企望有甚多きを案じたる実業派も低價を競落せしめむとしたるも防き中心会派も入札者を作りて之が参加せしめ遂に甘一人たる西陣吉が落札せるも至る処熱れとも此者宅地を企望せざる是等たる都会議員自業者なる背負こと、たり連帯責任を負ふ金一利金の仕拂責任を極めを要し低價競落を防ぎ弾たるも自ら背負ひ之の失敗者と成る

境界　都後所と境界を接する為確なる境界標を立へきことを主任に命じたるが主任は問題を軽視して傍ら杭めて小き側溝杭を立て置きたるが此地が学校児童の運動場としたりしを以て急ち児童が抜き去られ其痕跡を止めず境界明示を缺きたること、なる故是中心会派と宅地の西側を板囲土塀の前不動地を剥きと主張し実業派と其前一面の通路を存すと抗争し西陣宅を、土地汚濁なりとして境界決定の必要生し西陣は都長に対し土地を強要し責任追求を都長に取り場会にされた為れ東部に帰せしめむとの氣色見へたり若し問題を政治問題に移らんとせり

都長は端なく争論の渦中に投じ入れたり当時市は病

移転を市部長等枕頭に会し凝議の末小不取敢交付したり一責任辞書を郡庁に提出し得て後の業績の難きを
ことたりたるが新宮所後場も実地の細図を秘しても示
さず部長も細図の提出を要求し責任も又新宮所後場
に分担を要求することゝなりたり
仲裁数年　西郡、さて不明の儘小倉地を引渡し
たるに境界問題の深せさること数年前郡会郡部長
の間平和を来したり
山本丑吉氏の中裁　実業中心二派抗争数年の難問題
は使及ぶ所少なからざれも扱ひたりしかも山本
丑吉氏拠身此中裁小寅り若心奉之逆小乱麻を絡接
の間小断つを得使此人の手腕を認むるに至る

山本氏も東宇佐郡北山村大字大沼の人同地に等野便局
長を勤むと事務を家人に委し自ら新宮所を拾て木材高
を営む昔信用多からざりしも其取扱ふ木材も可なり多
く一時通貨金の調達之を行れ求めるやも二を審小
出新しとす銀行者間にても嘆たり
之この初所後動後の好景気小便乗し其譲渡期を巧小乗
切り多くの倒産者の中小此之に依然として体度を改め
ず昭和十年等毒を以て終る蓋新宮市木材業者間の帰材
たるを失なす（昭和十九年四月十二日稿）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

地名管見二

西向所ノ大字伊串あり元伊串村紀伊續風土記には村名墓田不明なりと云明治後ノ産り学者間ノクシの名の存する地を大古蝦夷人村居の跡なりと断ず即ち東牟婁郡内の熊ノ川、櫛ヶノ川、大櫛子、小櫛子（此地を二ツの山共小櫛子山なるを大小なるを以て上ノ大小の字を冠したるなり）串崎の類を云ふなり然るに此伊串村を重豊山上瀬姫神社の在る山麓を廻りて西ノ瀬、姫川二村共り東ノ神ノ川、古座神座（古田神田ヨリ北三村あり皆神ノ傍めるを地名なるか此中間ノ在る伊串村ノ蝦夷人の村居なりしなりと認められ、伊串も神ノ傍故有る地名なるへしならす然て斎串なるか整くヶ崎すべと云ふ且蝦夷人の居りしなるなのクシの名を大持上ノ村なるノ伊串

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03967

丈けすクシの称呼の下ふあるも他と迥かに異りたる所等の故か予も任意をたゝ特異人の封居たりしとも考へさるたり後者を方望す

古座川三十六勝中か筏月岩あり親月か住たりと信し岩辺を徘徊したるもまる迦たり旦又近辺か観月か良き明月岩在り類名たり東月掬名の依る所を知ること二十年たり頃日師佐等の詩筏月村頭東月叢の字を読み筏月をウツギるり字津ホを称称せんとして東月の字を掬なたるものたるを知り詩たり思れとも掬名字義を深く思索すし　（昭和十九年四月二十日記）

樟と大谷渡

樟　予明治二十九年初めて新宮に移る常時熊野ハ樟樹等をもって極めて少なし樟樹以外多からむと思ひしに楽に相違して極めて少なし故に之を故老に訊ねたるか旧藩時保護樹として樟天国以上とされ枝柿も官廳の許可を要し繁殖なるのみならず時に罪を得ること有るに依り天和弾のとき盡く伐去りたるに基けりと云へり是昂保護の絶滅の結果とたりたるなるべし

大谷渡　古座町の九郎島に熱帯植物の大谷渡あり珍種たり昭和の初繁より之を保護植物に指定し日を期して其後の採収を禁じたるに其日に大谷家を速く訪み云られ一株を留めさるに至る人情此の如し是亦保護却て

反寿の結果を招くに至りたり
吉の二点為政者の猛省すべきこと大なり世に類少からず
類すべきなり

小島茅穂氏

小島茅穂氏は福岡市中新川二丁目に五番地に元弘元年六月十三日生昭和十年十一月十八日古賀氏の自宅にて死去
家代々当地蔵元仕に食禄八石扶持米若干和漢式の家
歴甚模範的人物なり茅穂氏の家系へ一郎

祭文

昭和十年十一月十四日古賀氏長代理助役横屋林太郎
業績を供へ前古賀氏長小島茅穂君の霊を祭る
君は明治三十三年十一月古賀氏に助役となり同三十
七年八月氏長に当選し以来任期を重ね大正二年八月
に至り一旦辞任し昭和五年九月再び推挙せられて町
長となり爾後引続き第十五年七ヶ月

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03967

たり、而して古座所会評員となること大正五年十一月より昭和弐年八月まで同地に於て前後十二年五ヶ月を第一東牟婁郡会議員となること明治三十九年九月より同四十年十月まで至る一年二ヶ月又和歌山県会議員となること明治四十一年十二月より大正二年八月まで至る五年七ヶ月まで及び其他古座町の関係団体所謂校組合、道路組合、財産組合の役員に参与したり是等団体生活に関係する年数にして其間に於ける君の功績の影響ること固より偉大なるものあらざるなり

更に古座漁業組合に於ては三十三年間殆んど一貫の努力あり又東牟婁郡和歌山県及帝国水産組合に於ては副会長又は評議員として尽力せられたる大関

紀の事実に属し、其他古座信用組合並に漁業者同組合と共に新身会社とが第一にして又は功労後十人からざるものあるべき吸収に要せざる所なり

此の如くして元の我町の自治其他に於ける関係は多年なりたりと雖も十分に指導補益の誠を尽されたりしに付れも感謝措く能はざるところなり

君は性剛毅にして頭脳明敏なり同氏は先書概を携へて新答議の吸枚を急ぐ、事を論ずるに雄弁能筆を振はして文辞条達人喝賞せざるなし

近年自治に関する多事の時に属し業を亦多端の際に方り此故に於を以て君を安逸の境に置く能はずして

世話の重職を始め各部の事に君を労することは大なるものあり富に其健康を祈り其長寿を願ひて止まず先般病に倒せられたるは実に意外にして急逝遂に帰らざるものと思はるるが意外にも急逝遂に帰らざるを以て嘆惜極りなく病院限りなく同人の会葬者諸氏相謀り葬儀の礼を以て微忠を致し功績を偲ばんとす尚くは哀けよ

古座川農林産業組合

市議

古座漁業組合理事小島孫信氏の溺死として哀悼せられ居たることは誠に悼惜に堪へざるなり又議員に恐縮に堪へざるなり

君が昔日に来られたのは明治三十五年始めて漁業法が実施せられた際であつて我組合の組織に尽力せられ以来其中枢となりて精励せられたること是霊三十三年の久しきに亘りまして其間に於て組合員の訓練に其生業の安定に或て漁業権の立案受理法の改正に又組合基礎の保強に連続して研究を遂げられ多大の効績を傾けられまして組合の業務の円満に整理の実績の年に挙げたることは大正二年三月に本縣知事より表彰せられたるに依りて之を徴ることが出来ます而して君は漁業に於ては重業の成績に到りては載せて古座漁業組合誌に詳しくありますが加之去年郡私産会に和歌山縣水産会に於ては副会長の任に在り又市

國水產會ヲ評議員トナラレテ斯界ヲ盡瘁貢献セラレタル功績ヲ茲ニ賛言ヲ加ヘ以テ謝意ヲ表シ今ハ世ヲ非常時ヲ以テ叫ビ漁業法ノ一大改正ヲ加ヘラルヽ折柄ニ善處ヲ期シ保重ヲ祈理ノ力ヲ必要トスル今ヨリ信頼ヲ仰キ君ヲ失ヒタルコトヽ思ヒ東懐ヲ禁ヘザルコトヽ雖ヲ以テ哀悼ノ辞ヲ捧ゲ君ノ英姿ヲ再ビ見ルコトカ出来ヌ君ノ温言再ビ聴クコトノ出来ヌヨウナコトヽナリマシタ本日組合員ヲ代表シテ君ノ霊位ヲ弔ヒ一切ノ後ノ事ヲ述ヘテ弔辞ト致シマス

昭和十年十一月二十日　下関漁業組合理事

以上巻文弔辞ヲ根據トスル資料ヨリ市ノ代作シタルモノ

ヲ日他見聞ヲヨリ事跡概略掲載セラレタモノ

如ク故人ハ組合ヲモ保ヲモ君ノ言説ニ耳ヲ傾ケタリト云

又茶ニ嗜達ヒタル者振リタリ

折ニ觸レテ經験ヲ語リ又長詩ヲ作リ萬葉調ヲ好ミ古今集ヲ愛ヒ

古歌ヲ精博行セラレタルカ君ニ之ヲ感慨ニ堪ヘ

絶ヘタリ

金錢ヲ吝ム気ナク常ニ自知ノ賛成ヲ要シタリ

古歌數ヲ案器ノ田村署長ト相語ラヒ十数年ヲ経テ

微塵別發自ラ私ナクシテ深甚ノ災ヲ罹ル小学校遺築費

仕拂ハ皆空行為ナリトカ前茶科厚ナリシ如シ

紀南鉄道中横断工事概況

長村長等上京したるときは小島氏も中根者となりて活動したりと云

佛壇を買ひ求めて仏壇より優りたり

主義を聴講したり講書を第一高等学校代理記

小林たれたり講書を学校組合へ達せより家焼ぜら

れたり

古座吟上の時の仏壇を漁業組合より者のためめ建築し

たり新校舎設計監督したり

古座銀行破産のと事整理の任に当りたり

古座川橋の架設を市の功とする

小島義氏伝

（昭和九年四月廿四日稿）

此稿埋木より発見せられたる山本東太郎氏の書東草等に

て読み終り故に左に幾分多く改写し保存置きたり

謹啟時下新緑更衣之節

尊台益々御壮健なる御元気にて社当法人御事と奉拝察候如何

にも御淋敷候哉又御病人さまもし其後御順快被遊候哉是又

奉伺上候

御説拝借之理本長々留置申訳無之御許恕り度候様返し

敬謝千万難有奉銘謝候

今明之内別便小包にて御返璧申上候条御改め御受領

願上候

言葉を以て懐敦き郷土と未曾有なる所謂理

木の存在を拜承禅益不少興味津々昭聽す蔵なるを得候
仕合筆才頑拙に不堪候尊稿中に津田華山の男二代清右
衛門氏と半蕉章が書畫好にてさまで言傳ものなかり
しに南畫の面白きものを珍蔵せられ小生とも少壮年配
を異に対候得共特殊にては極て無慾豪潔に富人なる似
合の性情の持主（藤田豊次郎君の令兄）小生兄弟の如
き無二の親友にて有之候が其代（初代に手）則華山
翁を事一言談出されん候こと無之（十年不新諸来改談し
が書画に談に及ぶ日暮の移るを不知夜更の聞くるを忘
れ御諸致候間柄に候へしに）如斯詩歌にたしなみ
りし方と知りせず在世中に事情（逸事）なを聽く（か
りしものと殘念に存ぜる次第に御座候同時に拙二代

君の歌て父君を吹聽せられさりし様度の眞床しきが感
しに其人格を追慕せざるを不得嬉敷存候
傳春暉氏の漢詩又氏の法名迄つけられ候事（宮程）和尚
に小生極て駑愚小生の戒名を命じ呉候後間もなく迂化
せられ候間拙者和尚と春暉氏との関係を尊稿にて委敷
拜承又正法寺鉄間和尚に遺稿一則名僧に在せし事等所
謂埋木の存在を拜誦喜悦敷存候
一面的大人物 偉士 遺業、地理等々小院に世間一般に
周明せられ其歴史小院ひさらんも一地方的の問題に到
りては手代の遠かるに苦み堪れずして不少秘想功か
し開き地方開発 人物を輩出に事業せらるる甚大なる
に堪致候て尊稿埋木の如き愈貴益々珍重古へきを痛

感せざるを不得候と同時に御起稿と御苦労に対し一入
の敬意を表し奉る次第に御座候　恐々頓首々々
先ず右御礼迄如此に御座候
三月三十日　和田中野病院和言子　（明治九年也）　山本忠太郎

中根賢台
御侍曹

（年啟脱）

生徒心得
一、練習中ハ他ノ者ト雑談ヲセヌコト　四、活字ヲ抜取ラヌコト　七、機械ヲ濫用ニスル事
二、日本婦人トシテ上品デアレ　五、機械ハ大切ニスルコト　八、紙類ヲ無駄ニセヌ事
三、

御手紙拝見致候
其方様ハ御病気ハ如何
なる事に御座候哉
ハ
ハ
ハ

無法地帯を開拓するには人生を高尚に保ち
之を持ち中一は四郎山の男二代目は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菅沼タイピスト養成所

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967

先は又徒をめ[illegible]
[illegible]
[illegible]
山[illegible]

十月[illegible]

[illegible]

生徒心得　一、練習中人他ノ者ト雑談セヤコト　二、日本語入トミテ上品デアレ　四、語ヲ投ゲテヤコト　五、機械ハ大切ニスルコト　七、機械ヲ清潔ニスル事　八、紙類ヲ紙屑ニセヤ事

菅沼タイプライター製造所

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03967

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03967